

チンパンジーに言葉を教えてみると……

人間は言葉(ただし発音を伴わない、学問用語では“内言”と呼ぶ)で思考し、その思考を言葉で他人に伝えます。人間はこうして知恵を蓄積することにより、百万年の長い年月を一步一步前進して、現代の文明社会を築き上げました。

チンパンジーは、生後の二年間くらいは人間の子供に負けないだけの知恵を持ちながら、言葉を持たないために、今でも百万年前とまったく同じ生活をしています。チンパンジーに、人間が言葉の教育を施したら、チンパンジーは言葉を覚えるだろうか。言葉を覚えたら、チンパンジーの生活がどう変わるだろうか。

そんな好奇心から、チンパンジーに言葉を教える試みが一九三〇年代以後盛んになりました。

その中で、アメリカのケログ夫妻により、グアと名付けられたチンパンジーが、生後約一年半にわたる教育で約百語を理解することに成功したことが報告され、有名になりました。けれども、言葉を使うことは、まったくできなかつたと報告されています。

その後、ヘイズ夫妻やガードナー夫妻等の貴重な報告があつて、一九七〇年代に至り、プリマック夫妻やジュアン・ランボー氏により、視覚文字を教育することによって驚くべき成果があつたことが報告されました。

プリマック氏のサラと名付けられたチンパンジーや、ランボー氏のラナと名付けられたチンパンジーは、いずれも百数十の文字(それは全く象形的性格を越えた純然たる符号)を覚え、これを使って文章表現(英語の文法に則った)を行ない、人間と思想を交換することに成功したのです。

これらの事実は、まだそういう指摘がだれからもなされていませんが、私は、『視覚言語が聴覚言語よりも覚えやすい』ためであり、また、それを実証する証拠になる事実だと思っています。